

りとならるべきだと思ひます。もう一度聴きますが、お父さんは、もう道理が解らんやうにでもなつてゐますか？ 齡を取つて、リウマチかなんぞで、だんく變つて、愚鈍にでもなつてゐますか？ 口は働きますか？ 耳は？ 人の見分けは？ 自分の權利などをやかましくいひますか？ 床に就きづめで、もありませんか？ 毫けて、子供に返つて、たはいがないのですか？

フロリ いゝえ。同年配の大概の者よりは健康でもあり、達者でもあります。

ボリク 此白い髭に掛けて言ふが、これア些と不孝な爲方ですぞ。譬へば、わたしの伴が妻を自身で擇ぶのは當然のことだが、同じく當然のこととして、父が……良い子孫を得るといふ事以外には、老後の樂みは何にもないのだから、……さういふことには、多少相談に與るべき權利を有つてゐる筈です。そりや全くその通りです。けれども、お老年さん、少々仔細があつて、

その仔細は言へませんけれど、此事をば父には知らせないのです。

ボリク お知らせなさいよ。

フロリ 知らせますまい。

ボリク 知らせて下さいよ。

フロリ いゝえ、知らせません。

（横合から）知らせなさいよ。此縁談を知らなすつたからつて、苦情を言ひなさる氣遣ひはねいだから。

フロリ いゝえ、そりやいけません。さ、契約通り、結婚させて下さい。

ボリク （手強く）いゝや、離縁させます、伴とは……

と言ひながら、手早く假裝をかなぎり捨てて、

呼びかねる若い衆！ 實の子だと言ふには、あんまり下卑過ぎた汝の振舞だ。一國王の嗣ともある身が、牧者の眞似なんぞをするとは！……（親

爺を睨んで) 不届至極の老爺め、汝を絞罪に處したところで、たかゞ一週間をこいらの命を縮めるに過ぎんのが残念だ。……(バーティタを見返つて) また汝は、齡はも行かん辯に、呆れ果てた妖婦め! 汝は敵手が王子だといふことを承知の上で、爲てゐたに相違ない、……

親 (頭を抱き、胸をおさへて) おゝどうすべ!

ボリク 其罰には、其美しい面を荆棘で搔破らせ、今よりも一段あさましい身分にするから、然う思へ。……(フロリセルを睨んで) やい、馬鹿者、若し以後、汝が此こッは女に會へないのをば情ながつて、溜息一つでもしたといふことが分ると、……無論會はせないから、……勘當申しつけるぞ。子とは思はんぞ。いゝや、親族でもないぞ。大洪水の太古の血縁にまでも遡つて、縁を切るぞ。……此言葉をよく味はつて、従いて來い。……やい、下郎、不埒至極の奴だが、今度だけは、嚴罰を下すのを赦してやる。……それからお

のれ、妖婦め、……汝は農夫の妻となるには、いや、此男が(とフロリセルへ思入して)王子でなければ、決して妻としても恥かしくはない、むしろ此奴の方が劣つてゐる位ゐの女だが、若し此以後、假初にも此奴をば誘ひ入れたり、或は又更に抱き寄せたりするやうだと、其かよわい體を只た一挫きにする嚴刑に處するから、然う思へ。

と手強く言ひ捨て、おいてボリクシニズは入る。

バーデ (歎息して) もうこれで破れツちまつた! ……けれどもわたし然う怖いとは思つてゐなかつた。わたしあの王さまに、何度も露骨に、御殿を照らす其太陽は、わたしたちの此茅葺小屋へも同じやうに光を見せてゐると言はうと思つた。……(フロリセルに) あなた、どうぞもうお歸り遊ばして下さいね。ね、きつとこんな事になると言つてたでせう? どうぞお身分柄をお忘れなさいますな。此夢はもう覺めました、女王さまの眞似なんかわたしも

う決してしないで、將來は羊の乳絞りをして、泣いて暮します。

カミロ

（親爺に）おい、お父さん、どうしました？ 何とか遺言でもしなさいよ。

親

どうだか、分りません。……（フロリセルに）お、あんた！ あんたは此八十の老爺を駄目子にしてしまはつしやりました！ 静かに墓へ入られる

ことだ思つてゐたに、我父が息引取つた其寢床でおツ死んで、我父の骨

と並べて埋めて貰へるとばかり思つてゐたに。どこかの絞罪係の人に

死刑服被せて貰つて、僧さまに土イかけて貰ふことも出来ぬ穴へ投り

込まれるだ！……（バーティタに）お、うぬれ、憎い奴め、彼男が王子さまだ

いふことを知つてやがつて、それでゐて、危ツかしい約束なんかぶちやア

がつて！ もう駄目だ！ もう駄目だ！ 今直におツ死なれるものなら、

本望通りの死方アするんだがなう！

親爺泣きながら入る。

フロリ

（カミローに）なぜそんなにわたしを見てゐるのです？ わたしは悲しんぢや

ゐるが、怖れちやゐない。一頓挫したけで、少しも志を變へたわけぢ

やない。もとの通りなんだ、わたしの心は。強ひて引戻されば、ますます

す駆け出さうといふ氣が熾んになるばかりだ、獵犬ぢやあるまいし、嫌々

革紐で牽摺られてなんぞ行くもんか！

王子さま、あなたはお父さまの御氣象は好う御存じでせう。只今のところ、何を申さうともお聴入にもなるまいし、又貴下もおつしやるお積りぢや

ございませんまい。恐らく御對面も、只今は叶ひますまい。ですから、お怒

りがお鎮りになるまでは、お前へお出でにならない方がよろしうございます。

出る積りはない。え、カミローだらう？

カミロ さやうでございます。

バーデ (フロリセルに) ね、わたし、何度もく、こんなことになるだらうと言つてましたでせう！ どうせお妃ごっこは、ほんたうの事が分るまでしか續けられやしないと、何度もく、言つてましたでせう！

フロリ いゝえ、わたしが約束をば破らない以上、決して心配するには及ばないよ。わたしが約束に背くやうなら、此地球なんか滅茶々に碎けて、萬物の種が悉皆亡びちまふが可い！……よ、顔をおあげよ。……お父さん、勸當して下さい。わたしは王位を捨て、愛情を取ります。

カミロ まあ〜。さう何もかもお一人ぎめになさらないで。

フロリ いゝえ、一人ぎめぢやない。愛がさう指圖するのだ。理性も多分賛成してくれるだらう。理性が否といつたつて、寧ろ狂氣になりたがつてゐる。覺が此決斷を歓迎してゐる。

カミロ それぢや自暴自棄といふものです。

フロリ 自暴自棄でも可い。約束を遂げるんだから、その方が正しいんだ。カミロ、わたしは、ポヘミヤ一國に易へても、其ポヘミヤの王となつたゝめに得られる權勢や、榮譽に易へても、太陽が照らし、大地が孕み、大海原が其千尋の底に隠してゐるあらゆる物に易へても、此わたしの戀人に誓約したことは破らないよ。だから、足下は父の畏友であつたんだから、わたしが居なくなつたら、……實際、二度と父に逢はうとは思はないから……どうぞ父を諫めて、其怒りを慰めて下さい。わたしの運命は自然に任せておいて貰はう。これだけの事は言つても可い、……わたしは陸ぢや此女と一しよになれないから、海へ往くんだ、ちやうど偶然に渡航船が來たことを幸ひだ。何處へ往つて、何をするか、といふことは、知らせたつて役にも立たないし、又知らせようとも思はん。

カミロ お、御前！ その御艱難にお耐へなさることが出来ればよいが、…わた
 しどもに對しては強いことばかりおつしやるけれど。

フロリ (此間、バーディタは黙つて立つて考へてゐる。
 (バーディタに) 一寸、バーディタ。

カミロ (二人の後姿をながめて) どうしても脱走をなさる氣だ。…(と考へて) 若し之
 を機會に、お侶をして、途中の御危険を守つたり、愛敬の誠情を盡したり
 して、同時に懐しうてならん本國のシ、リヤへ歸つて、お不幸な主君リオ
 ンチーズさまにお目にかゝることが出来るやうだと、おれも仕合せなの
 だが。

フロリ (と一隅へ伴れて行くとして、カミローに
 今直に聽くよ。
 此うちフロリセル又戻つて来て

フロリ ねえ、カミロー、つい失敬したよ、わたしの胸は大切な事で一ぱいになつて
 ゐるから。

と又カミローの傍へ腰をおろす。

カミロ もし、あなたはわたくしがお父さまを愛敬し奉りますために、及ばずなが
 ら聊か忠勤を盡しましたことをお聞き及びでございませうね。

フロリ 大變に盡して下さつたさうだ。足下の功勞を語るのは父の無上の喜びで、
 どうかして其報いがしたいと、そればかり苦勞にしてゐるやうだつた。

カシロ ねえ、御前、若しあなたが、わたくしが王を愛し奉るの餘り、其御實子たる
 あなたをも愛し奉つてゐるとお信じ下さいますなら、どうかわたくしの
 獻策をお用ひ下さいまし。一旦御決定のお思ひ立を御變更遊ばすことが
 叶ひますならば、わたくしは誓つて、あなたを王子さまとして御待遇申し
 上げると同時に、お身を滅してまでも…それは縁起でもないこととござ

いますか！……離れまいとお思ひ遊ばしていらつしやるあのお方と御夫婦にお成り遊ばすことの出来ませぬ處へお落し申す心得でございます。さうしてわたくしは、其御不在中に、お父さまの御立腹をばお和め申すことに努力しまして、御異議のないやうにいたします。

フロリ だつて、カミロー、どうしてそんな奇蹟同様なことが出来るんだい？……まるで足下を人間以上の者と信じてもしなけりや出来ぬことぢやアないの？

カミロ 一體、いらつしやらうといふ先方を、お考へになりましたのですか？

フロリ そりやまだ考へてゐない。けれども本来が偶然に斯うなつたんだから、暗雲にやるより外に爲様はないよ。運を天に任して、風の吹廻し次第に飛んでくのさ。

カミロ ぢや、わたくしの申すことをお聴き遊ばせ。あなたが飽迄も御出奔の御

決心をお變へにならんとすれば、シ、リヤ國へいらつしやいまし。さうしてあなたも、妃殿下も……妃殿下に相違ございませんから……國王リオンチーズどのに御對面遊ばせ、もつともあの方も、其御身分らしいお裝束を遊ばしてね。リオンチーズ王が、大喜びで、涙を流してお迎へになり、あなたをお父さまのやうに思つて、お詫をなさるやら、此お姫さまの手にキッスをなさるやらは見るやうでございます。あゝ昔は濟まんことをしたと幾たびも御自分を叱つたり、咒つたりして、どうか此新しい交りが、思想よりも、時よりも速く、無二の友誼とまで發達するやうになぞと焦慮なさるに相違ございません。

フロリ だが、カミロー、どういふことを口實に訪問したものだらう？

カミロ お父さまからの御慰問の使者といふことで御訪問遊ばすがよろしうございませぬ。で、王に對しての御舉動や、お父さまからの御口上の御主意な

ぞは、それはわれ／＼三人の間に解つてゐることですから、わたくしが豫
じめ書き認めます、それを御参考に遊ばして、王と御會見の都度、上手に御
挨拶遊ばしませ。さういたせば、全くあなたが お父さまのお旨を受けて、
其御意のまゝをお傳へになるのだと思はれるに相違ございません。

フロリ 承知した。望がありさうだ。

カミロ あなた御自身の亂暴な御案よりは、ずっと頼もしいございます。通つたこ
ともなけりや、夢に見たこともないやうな海や濱へお乗出しになりや、お
不仕合せは定まつてをります。一つ脱れ、ば、又一つとお厄難がつゞくの
を如何なさることも出来ません。只一つの頼みは鑑ばかりです。其鑑も
あなたがたが「あゝ、居たくない」とおぼしめすやうな處へ、お船を停泊さ
せる御用を勤める位のものです。それに、愛の絆もやつぱり榮華です、
艱難が続くと、愛のあてやかな顔色も、其懇ろな情も變ります。

バーデ (聞流しかれて) おつしやることの半分は眞實です。艱難のために頬の色は

變るでせうが、心は決して渝りません。

カミロ え、全く? ……(と感歎して) あゝ、逆も／＼、これから十何年と經つたから

ツて、此家なんぞで、あなたのやうな方は二度とは生れやしない!

フロリ カミロー、彼女は、氏こそは拙いけれども、育ち柄は立派ですよ。

カミロ お教育が足りないからお氣の毒だなどは申されません。大概の教師よ

りも以上でいらつしやるから。

バーデ (はづがしかつて) ごめんなさい。わたし、そんなにお褒めだと、顔が火のやう
になりましたよ。

フロリ (バーディタの此様子をほれ／＼と見やつて) 可憐い／＼バーディタ! …… (忽ち我に
返つて) 今はまるで荆棘路を歩いてゐるやうなもんだ! ……カミロー、お父
さんを助けてくれた上に、今はわたしたちを助けてくれる足下は、わたし

たち一家の名醫なんだ。え、足下、どうしたらよからうね？ 迎もボヘミヤ王の王子らしい身支度なんか出来やしないから、シ、リヤへ往つたつても信ぜられやしまい？

カミロ

御前、御心配なさるな。わたくしの財産は、みんな彼方にあることは御存じでせう。お服装其他は、一切わたくしが好いやうに命じます、わたくしが書いた臺帳をばあなたが御演じ遊ばすかのやうに。其一例に、御安心のため、一寸申し上げておきますことが……

とカミロー一隅へフロリセルとパーティタとを伴れて行く。
オートリカス 又出る。

オート

(獨語) は、は、は、は、！ 正直で野郎は何て大馬鹿だ！ 正直の兄弟分の忠實さんもお方も極めてお聰明な旦那さんだ！ とうとう、残らず我樂多を賣附けてくれた。一個だつて残つてやしない、贗寶石でも、リボンでも、鏡

でも、香玉でも、飾針でも、手帳でも、小唄でも、ナイフでも、打紐でも、手袋でも、靴紐でも、腕飾でも、角の指輪でも。つまり荷箱アがらあきだ。まるで俺の商品を、福授けるお護符でもあるかのやうに、我れがちに、買はうてんで、おしあひへしあひしてやがつたんで、どいつの財布が一等見場がいゝかてことア、後のために、ちやんと目星を附けといたからだ。あの農夫め、よつほど足らねい奴だ、あの阿魔兒の唄に惚れ込みやアがつて、節と文句とを覚え込んぢまふまでは、一步も動きやアがらねい。だから、みんなが俺の傍へ寄集つて、から夢中で、耳ばかりになつてやがつた。鎖で垂下げてる鍵だつて鑿取れさうだつた。くだらねい小旦那の唄の文句に氣を奪られて、どいつもこいつも、無我夢中なのだ。其昏睡状態で奴を利用して、奴らのお祭財布の大概を頂戴に及んぢまつた。若しあの時、あの老爺が、女や王子さんのことをがみ、怒鳴りながら、やつて來やがつ

て、秤はかりに集たかる阿呆あほう鴉からすどもを逐おつ拂はらはなかつたなら、一箇ひと聯隊れんたいの財布さいふ全滅ぜんめつといふところだつた。

カミロ

いや、其そのお疑うたがひは晴はれませう。只今ただいま申まをしたやうな仔細わづらで、わたくしの書狀しじやうの方が、あなた方がたよりも先まづに著ちやくしませうから。

フロリ

さうして又また、リオンチーズ王わうの返辭へんじが足下あしもとの手へ届とどけば、それで以もつて……

カミロ

お父とうさまの御機嫌ごきげんも直なほりませう。

バーデ

どうぞ御運ごうんの好よいやうに！ 今いまのお話はなしはみんなく結構けつこうだと思おもひますから。あ、だれやらが？ (とオートトリカスを見て) あの男をとこを利用りようしませう。何でも役やくに立たつ者は、捨すてないことにしませう。

カミロ

オート (カミロローらが近寄ちかつて来るのを見て、ぎよつとして) 今いまの獨語ひとりごとを聞きかれたとすると、首根くびねツ子こがあぶないぞ。

カミロ

おい、どうしたのだ、お前まへ？ なぜ然さうう慄おそへてゐるのだ？ 怖こはがるにや及およばん。お前まへをどうしようといふのでもない。

オート

手前てまへはつまらん貧乏人びんぼうじんでございませう、へい。

カミロ

さア、その貧乏人びんぼうじんけつこう。だれもお前まへの其貧乏そのびんぼうを盗ぬすまうとはしないから。けれども只其貧乏ただそのびんぼうの外見ぐわいけんだけを是非せひ借かりたい仔細わづらがあるんだ。だから大急おほいそぎで、……さし迫せまつた必要ひつたうがあるんだ、……すぐに其衣服そのきふくを脱ぬいで、それを此お方このかたのと取換とりかへてあげてくれ。無論むろん、あの方かたの方が御損ごそんだけれども、……まだ其上そのうへに斯かういふお負おまけを下くださる。

と金子かねこを渡わたす。

オート

手前てまへは酷ひどい貧乏人びんぼうじんなんでございませう、へい。(俯白へんぱく)よく知しつてゐるんだ、俺おれはお前まへさんを。

カミロ

さ、早はやくしてくれ。あの方かたはもう半分はんぶん脱ぬいでいらつしやる。

オート ちや、正氣でおつしやるんですか？ ……(傍白)こりや何か詐謀があるな。

此以前フロリセルは牧者の假装を脱して王子の常服になつてゐたのであつたが、更に其王子服の上被をも脱いで

フロリ (オートリカスに) おい、早くしてくれ。

オート 成程(と貰つた金子をひれくりながら)こりや正氣ですね、かうして正氣(正金)を下さる位だから。だが、どうも氣が濟みませんねえ。(と躊躇してゐる)。
カミロ さ、ぬいだり〜。 ……

これにてオートリカス粗末な行商服を脱ぐ。王子はそれを受取つて被り、オートリカスは王子の上被をおのが身に附ける。此うちカミローは、小聲で、パーティタに向ひて

御運のよいお姫さま、……どうか此豫言通り、お姫さまにお成り遊ばすやうに……あなたも、一寸どこかの隅ッこへいらしつて、王子さまのお帽

子をお眉が隠れるほどに被して、さうしてお顔を包んで、其お上被を脱いで、出来るだけ、本當のお姿に似ないやうになさらんければいけません。役人が見張つてゐませうから、見咎められないで、お船へ乗すには、さうなさらにはやなりません。

パーテ 脚色の都合で、わたしまでも役を勤めなくちやならないの？

カミロ 止むを得ませんよ。(フロリセルに)お濟みになりましたか？

フロリ お父さんに逢つたつて、もうわたしだとは氣が附くまい。

と帽子をかぶらうとする。

カミロ おつと…お帽子は此方へ戴きます。

と帽子を受取つてパーティタへ渡し

あ、あ、お姫さま。……(オートリカスに)はい、さやうなら。

オート (すつかり王室の役人らしい姿になつて)へい、御機嫌よろしう！

の端でも、店頭でも、教會でも、裁判所でも、刑場でも、注意さへしてれア、仕事だらけだ。

倅

(親爺にはれまア！ なんて馬鹿言つてるだね！ もう斯うなつたら、彼女ア魔物隠しに逢つた子供で、あんたの實の子でねい言ふより他に爲方ア無いだよ。

親爺

だが？ まアさ、おれの言ふことを聽かつし。

倅

うんにや、まア、俺の言ふことを聽かつし。

親

ちや、勝手に。

倅

彼女があんたの實の子供でせへ無けれア、肉親が悪いことしたでねいだから、あんたの身の罪科にはなるめいだに。彼女の身の邊りに有つた物オ、内密の物でも何でも、持つてつて見せるだね。さうしときや、法律なんか、なに關ふもんかね。大丈夫だ。

親爺

ちやア何もかも王さまに話しツちまふべい、息子どんの悪戯も何もかも。あの人アよくねい人だ、父御にや不孝者だし、おまけに俺を王さんの兄弟分なんかにしてしようとさつしやつた。

倅

お前と王さんとちや、あんまり縁離れがしてるだ。だがね、若しかお前が王さんの兄弟分になつたら、一合に附いて、ま、どら程血の値が騰つたべいべいか？

オート

(傍白)犬ころどもめ、お聰明なことばかし吐してゐやがる！

親

ちやア王さんの許へ往くべい。此包みを見せたら、王さんは屹度髭を扱かつしやるだんべい。

オート

(傍白)あいつらが言ひ附けに行きやがつた時分にや、舊の御主人のあの王子さんの駈落の邪魔になるだらう。

倅

ちようと御殿にござらつしやれば好い鹽梅だかなア。

オート (傍白) おれア、本来は、善人ぢやアないんだけど、時たま善人になることもある。此小間物屋の髭ア取ツちまはう。…… (と附髭を取つて、容體ぶつて大柄にあゝこらく) 農夫ども! …… 汝らは何處へ往く?



牧羊親子はオートリカスの服装を見て、貴人だなと思つて二人とも急いで帽子を脱いで、べこべこ辭儀する。

すのでございます、へい。

へい、お殿さま、御殿へ参りま

オート 汝らの御殿での用といふのは、何んだ? だれに用があるんだ? 其手荷物は何? 汝らの住所は? 名前は、年齢は、財産は、教育は? 知らすべき

事は、一切申せ。

伴 わたしらア純粹の農夫でございます、へい。

オート 嘘を吐け。穢くツて而も毛むくじやらだ汝らは。嘘は決して許さんぞ。

嘘も商人だけにはよく似合ふ、彼等は往々にして我輩ら武人に向つても嘘を吐く。けれども我輩らは、それに對して、金びらを切る、大剣で支拂ひなんかはしない。だから、彼等も嘘は吐かない。

伴 はれ、お前さまがあぶなく嘘オ吐かつしやるとこだつたね、自身で以て直と取消さアつしやらなかつたなら。

観 あんたは御殿のお役人さんでござらつしやりますかね?

オート うん、いかに。此服装に、ちやんと、御殿の風が見えてるだらう? おれの歩きツぶりに、自然と、宮中の威嚴があるだらう? 宮中の臭ひがしないかい? え、雲の上人の輕蔑が、自然と菰の下人たるお前らに反射し

さうなものだねえ。お前らは、おれが斯うして敢てお前らと交渉したり、乃至追窮したりするからして、或はおれを殿上人ではないとでも思ふのかい？ 徹頭徹尾殿上人なんだよ予は。お前らの訴訟事は、取次ぐも、取次がなんも、おいら次第だ。だから（と特に物體ぶつて、聲の調子を變へて）何もかも申しツちまへ。

親 （大きに恐れて） 王さまへお直訴申したいことがございますので、へい。
オート で、其執奏者には？ 何を持って来た？

親 （解しかれて） へ？ と被仰いますのは？

伴 （親意に） 執奏者てのは、お爺さん、御殿の通語で、雉子てこつたよ。持参し
ねい言はつせいよ。

親 持参いたしましたしない。雉子も、へい、鶏の雄も雌も。

オート （傍白） 馬鹿に生れなかつた此方らは仕合せだ！ けれども運がわるかつた

ら、あいつらのやうに生れ附いたのかも知れねい、だから、ま、あんまり馬鹿にアすまい。

、此うち親子は何か密々相談してゐる。オトリカスは、物體ぶつて、楊枝で齒をせいつてゐる。（これは當時の上流ハイカラのしたことである）。

伴 （親意に） 偉いお役人さんに相違ないだよ。

親 服装は立派だが、着ッぷりは、あんまり品がよくもねいなう。

伴 あの氣まぐれなところが、立派な人の證據だアね。きつと偉い人だに、齒アせつてゐるだからね。

オート （親意に） 其包みは？ 其中に容れてあるのは何だ？ なせ其箱を持って来た？

親 へい、此包みと箱には、内密の物が容れてござります。これは王さまでなく

ツちや、お見せ申されません。今に、お目にかゝりさへすれば、御覽に入れ
ますだで。

オト 老人、お前は徒勞をしたよ。

親 へ？ 何故でござります？

オト 王は御殿にやお在にならんよ。御新造の御用船にお乗になつて、お氣鬱を
お散じ遊ばさうといふんで、風に吹かれてお在だ。かういふ重大なこと

が、お前らに解るかどうか知らんがね、王は目下御愁傷中で在らせられる。
へい、そのやうに承はりました。王子さまが或牧者の女つ子と夫婦約束
をなさいましたてんで。

オト 其牧者め、まだお召捕になつてゐないのなら、早く逃げれば可いて、人
間の脊骨は壓折れ、化物の心の臓も破裂しツちまふやうな拷問に逢ふのは
定つてるからね。

俣 そんな目に逢ひますだかね？

オト 工夫の附く限りの残酷な懲罰を受けるの、其老爺ばかりぢやない。血が
續いてる者は、五十回も隔つてゝも、つまり絞罪臺だ。偶然至極なこと
だが、是非に及ばない。下賤な牧者の癖に、女をお妃さまにしようと思
んだのだからな！ 石籠づめにされるだらうといふ者もある。だが、それ

ぢやアまだ寛大過ぎる。王位を羊小屋へ引下さうとしたんだからなア！
ありつたけの死刑に處したつても足らん位だ、一等きびしいのだから、輕
過ぎる位だ。

其老爺に伴があるてなことを聞つしやりましたかね？
有る。其奴は生剝にされる筈だ。それから體中に蜜を塗られて、熊蜂の

巢の上に載けとかれて、さうして七分二厘がた死んぢまふまで打捨ツとい
て、それから焼酎か何か強い薬を飲ませて、息を吹返させて、それから豫

め曆こよみで暑あつくて堪たらない日ひと定きまつてゐる日に、剣出けんしゅつしのまゝで、煉瓦れんが塀べいに凭もたせてかけておかれるんだ。と太陽たいやうは南みなみから一直線ちよくせんに照附てりつける、糞くそ糞へが集たかる、卵たまごを生ひり附つける、體からだが見みるく腐くつて行く。だが、あんな不埒ふちな惡黨あくたうのこ
とア云々かたこれいふがものはない。あいつらは謀叛めくはん人びとだ、憫あはれむにや當あたらない。
時ときに、お前まへらは、正直しやうじきな、純じくな人間にんげんらしいが、一體何たいなを王わうさまへ申し上げよう
といふのだい？ 予おれを相當さうたうに紳士しんし扱あつかひにしてくれ、ば、(と意味ありげに言つて)
御用船ごようせんまで案内あんないして拜謁はいてつの願ねがへるやうにしても、又お前まへらの爲ために、そつと
取俵とりひをしてやつてもいい。お前まへらの願ねがひを成就じやうじゆさせる者が、王わうさまの外ほか
にあるとすると、其人そのびとは、ま、こゝにゐるね。

倅こ
(親爺おやぢにあの人は偉えらいお役人やくにんさんらしいから、言いはつせる通りとほりにして、金與かねぐ
れることにしよ。お役人やくにんは、兇熊あらくまのやうに、剛情かうじやうに威張おどるだけれど、金
替かアはめれア鼻はなづらで牽引けんいんいて行いかれるだ。財布さいふ中なかをあの人ひとの手て中なか

へ投下なげけりや可いいだよ。早はやくさつせいよ。石籠いしづめになつたり、皮剝かわはに
されちやたまんねいから。

觀観
(オトリリカスに)へい、どうぞお調停ていしてくれさつしやりますなら、こゝ
に金かねがござりますが、これを倍ばいにしました上に、殘金あとかね持もつて來きますまで、
此この若わかい者ものを抵當ちどうにしときますよ。

オトリ 約束やくそく通りどほにしたら、其時そのとき持もつて來きるといふのか？

觀観
へい。

オトリ よし。ちや、半額はんがくだけよこせ。其方そのほうも關係者くわんけいしやか？

倅こ
へい、幾いくらか。けんど、こんなつまらねいもんでござりますけんど、皮剝かわは
にアされたくねいでござりますからね。

オトリ そりや牧者むくしやう爺ぢの息子むすこのこつた。彼奴あいつア、見みせしめに、縊くり殺ころした方が可いい。
(親爺おやぢを慰なぐさめて)大丈夫たいぢやうだに！ 大たい丈夫ぢやうだに！ 是非せいとも、まア、王わうさまの許もとへ

往つて、此珍らしい物オ見せて、彼女ア女でも、妹でもねいてと知らせるだね、さうしねい分ぶんにや、吾徒ア駄目だめになツちまふだから。…（オトリカスにへいしく、此事このことが都合よく濟みせへしれば、おれ此老爺このおやじが獻げます言つただけの金かね獻げますだ、さうして其金そのかね持つて来るまで、抵當ひきあてになつてをりますべし。

オート お前まへらを信じよう。一步先ひとみしまきに濱はまの方ほうへ行いきな、右手みぎてを。おれは一寸生垣ちよつといけがきを窺のぞいて、すぐ後あとから行くから。

伴 （親爺おやぢにあの人ひとに逢つたのは仕合せだつたね、ふんとに仕合せだつたね。言いひつけさつしやつた通り、先まへへ行いかう。…きつと神かみさまのお引合せだ。

二人入る。

オート （獨りになつて、ほくそ笑わらをして）正直者しやうじやうものにならうと思つたつても、運命うんめいの奴やつめがさ

うさせねいや。獲物えきものを開ひいた口くちへ落お下つしてよこしやアがるから。運命うんめいの奴やつに斯かう惚ほれられても困こまつたもんだ。二口ふたぐちだ、金かねと舊ふるの御主人ごしゆじんの王子わうじさんの爲ためになる事ことと。これが如何どうな出世しゆつせの手藝てづねになるまいもんでもねい。あの二疋ふたひきの土鼠とねぞうを、どう官くわんを、王子わうじさんの船ふねへ引張ひっはつて行いかう。萬一ばんいちにも王子わうじさんが、なアにもう一度陸ど上じやうへ上あらせろ、何を王わうへ訴うたへ出でたつてかまはん、汝きさまは餘計よけいなお節介せつかいをする悪黨あくたうだ、といはつしやるかも知れんが、そんなことは平氣へいきだ。悪黨あくたう呼よはりされるのにや憤おこツ子こになつてゐるんだから。王子わうじさまに引合ひあはせよう。何か容易よういならんことことがありさうだ。

入る。

* * * * *

第五幕

第一場 リオンチーズの宮殿の一室

リオンチーズ、其臣クリオミニーズ及びダイオン、故アンチゴラスの妻
ポーライン井びに侍者役ら出る。

クリオ もはや御十分でございます、聖者方も同様の御悔悟を遊ばされましたので
ございます。これでお償ひの叶ひません御過失のあらせられよう筈はご
さいません、全く御罪過に幾倍するお謹慎をお守り遊ばされました次第

でございます。神明既にお罪過を御宥恕あり、お忘れ遊ばされまする以
上、御前御自身にも御宥恕あり、お忘れ遊ばされますやうに願ひます。

リオン 彼女の事を、彼女の貞淑であつたことを懐ひ出す間は、彼女を酷くしたこ
とを忘れることは出来ない、あゝわるいことをした、といふ後悔の念は止ま
ない。それがために此國の嗣となるものを失くしてしまひ、男子たる者
が、萬事につけて、一生の頼みともしてゐた無類の、最愛の伴侶をも亡し
てしまつたのだから。

ポーラ ほんに、全く其通りでございます。若しあなたが、世界中を一人々々お物
色遊ばしきして、其人達から、何か善いことだけをお取り遊ばして圓滿な
御婦人をお造へ遊ばさうとなすつても、逆もあなたがお殺し遊ばしたあの
お方さまのやうには参りますまい。

リオン おれも然う思ふ。おれが殺した！ おれが殺したあの女！ 殺した……

には相違ないが、さういられると、身を切られるやうだ。おのしの口から出る其言葉は、自分で然う思ふ時に感じるのと同じやうに峻烈だ。どうか、只時たま、それを言ふやうにしてくれ！

クリオ (ボーライナに) いや、決して二度とおつしやつちやなりません。専ら王のお心をお慰め申すに足るやうな、何か優美な儀なぞを、種々と御工夫あつて、懇ろにお申し上げなさるべきでございます。

ボーラ あなた方は王に御再婚をお勧め申さうといふお仲間なのですわね？

ダイオ それが御不賛成なら、あなたは國家をお思ひなさらないのです、又御尊號を後々へ傳へ奉ることの大切さをお思ひなさらないのです。まア考へて御覽なさい、萬一お嗣君がおはしませんと定りましたなら、此お國にどんな危険が出来に及ぶかを。去就を決しかねた臣民共が果してどんな破目に遭遇するかを。さすれば、前のお妃が、今はおめでたくならせられてお在

のをお祝し申すのは、正當なことでありますまいか？ 御血統繼承の爲で

もあり、目前のお心慰めの爲でもあり、將來の上下の利福の爲でもあるから、お氣に召したお妃を再びお迎へになるやうにとお勧め申すのは、極めて正當な、清い、尊いことではありますまいか？

ボーラ 迎もお似あはしい立派なお方なぞはありません、お亡くなりになつたお方のことを考へると。それに、斯うなつたのは、神々さまの豫ての御内意でもございましたのでせう。あのアポローさまの御託宣に、リオンチーズ王は、失くした幼児を發見しない以上は、嗣を得る能はざらん、と仰せられたちやございせんか？ けれども、あのお幼いさまを再びお見受け申すなんぞといふことは、夫のアンチゴラスが……夫はお幼さまと御一しよに死亡なつたに相違ございせんから、……夫が其墓を破つて、二度とわたくしの許へ出て參るといふこと同様に、到底あるまじき奇怪なことで、

人間の理性の信じ得ないことです。あなたがたは、天意に反對遊ばすやうにと、御前にお勤めなすつていらつしやるのです。……(リオンチーズにお子さまのことはお氣づかひ遊ばすな。自然にお嗣君は出来ませう。アレキサンダー大王は最も有徳な將軍へ其國を遣されました。それで却つて最も良いお嗣が出来たらしうございます。

リオン

ポーライナ、ハーマイオネのことを今だに忘れないでゐてくれるお前だ。

あゝ、お前の意見通りにすればよかつたものを！ さうしたなら、今だつて彼女のあの大きな目をじつと見ることが出来たらうに、さうしてあの唇から、目に見えん無類の寶を取ることも……

ポーラ さうして、幾らお取りになつても、其お寶は殖ゑるばかりでありましたらうに。

リオン

全く其通りだ。もつあんな妻はない。だから、もう妻は迎へない。彼女

より劣つた者を迎へて、それを優遇するやうだと、彼女の在天の靈が迷つて、又死體に宿つて、犯罪者たる吾々のゐる此世界へ迷つて出て来て「なぜわたくしに？」なぞと怨みを言ひさうだ。

ポーラ さういふ通力がお有り遊ばせば、さうおつしやる理由がございます。

リオン 理由がある。さうして予を憤激させて、後妻を殺させるだらう。

ポーラ わたくしなら然うします。わたくしが幽霊なら、まづ其お方の平凡なお目を御覽遊ばせと貴下に申し上げて、其何處が佳くッてお見替なさいましたと申します。それから、あなたのお耳が裂ける程の大きな聲をして「わたしの目をお忘れ遊ばすな！」と斯う申します。

リオン あゝ、ありや星だつた、星のやうだつた。他の者の目は、みんな石炭も同様だ！ ポーライナ、其事は心配に及ばん。決して再婚はしない。

ポーラ ちや、御誓言遊ばしますの！ わたくしがよろしいと申し上げない以上、

決して御再婚は遊ばしませんか？

リオン 決してしないよ、願はくば我靈に天恵を垂れさせたまへ！

ボーラ では、お兩卿さん、御誓言にお立會なすつて下さい。

クリオ それはあんまり申し過ぎでせう。

ボーラ さア、あなた、……あのハーマイオネさまに、お畫像が似てをりますほどに、お似遊ばしてのお方が御出現遊ばさない以上は、……

クリオ まあ〜……

ボーラ もう申しません。……けれども若し強つて御再婚遊ばすやうな場合には、……

御意とあれば是非に及びませんから、……其時には、御前、どうか其お妃の選擇はわたくしにお任せを願ひます。前のお妃さまのやうにお若くて

はなりませんよ。前のお妃の御亡靈が出ていらしつて、あなたが抱いてお在遊ばすのを御覽じて、あゝ此方ならば、いつそ嬉しいとおつしやるや

うな方でなくてはいけませんよ。

リオン ボーライナ、お前が迎へろといふまでは、決して再婚はしない。

ボーラ それは前のお妃さまがお蘇生遊ばした場合のことでございます。それまでは決してお迎へ遊ばしてはいけません。

紳士役詩人の資格にて宮中に仕へたる者一人出る。

紳 シ、リヤ王の王子フロリゼルとお名宣り遊ばされるお方が、全く空前の美人とも申すべき姫君と御一しよに、拜調を願はれまする。

リオン 何の用で来たか？ 来やうが大國の王子らしくない。知らせもせず、突然に参つたのは、多分正式の訪問ではない、何か不意に餘儀ない事が起つて来たのであらう。侶廻りはどんなだ？

紳 僅かに一兩人、しかも下賤の者でございます。

リオン 妃も一しよだといつたな？

紳士 はい、曾て太陽の光を受けた人類中の最も比ひなきお方とお見受け申します。

ボーラ (歎息して) おゝ、ハーマイオネさま! どんな傑れた物も、過去の物は、去るもの日に疎して、現在の物よりは劣つたとせられます。あなたのお墓も、目の前の物に見替へられねばなりませんよ。…(紳士に) もし、貴下、あなたはハーマイオネさまお死去の間際には、其お美しさを讃め稱へて、未だ曾て比べられもせず、又比ぶべくもなかりし君、云々、と口でも言ひ、筆でもお書きなすつたツけが、其御父句はもう冷切つてしまひましたね。一全く空前の美人のお方が見えた、なんぞとおつしやるのは、大變な潮の退きようですのね。

紳 御免下さい。前のお妃さまの事を、つい殆ど忘却しまして、まことに相済みません。けれども、只今御入來の方を、若し貴下が只一目御覽になれば、

手前同様、やつぱりお讃めなさるであらうと存じます。あの姫君は、若し一宗派をお興しにでもなれば、只一言「従いて来い」と申されたばかりで、あらゆる他宗の者の熱烈な信仰をば打消してしまつて、それらを改宗させてしまはれるだらうと思ふほどのお方です。

ボーラ 何ですと? だつて女は?!

紳士 いや、婦人とても、あの方は愛しませう、あらゆる男子よりも立派な御婦人だといふので。又男子は、あらゆる婦人中の最も稀有なお方だといふので。

リオン おい、クリオミニーズ。同僚の役人共を助役にして、其人々を歓迎して、こゝへ伴れて来てくれ。

クリオミニーズと他の役人らと入る。
だが、奇態なことだ、こんな風に、そつとやつて來るといふのは。

ホーラ あ、あの王子さまが、子供衆の中の寶玉さまともお見上げしてをりましたあの王子さまが、今も尚御存生なら、ちようど其お方と一對の御年配でございますのに！ お生れ時が一月とは異つてはをりませなんだ。

リオン もうそれを言つてくれるな。よしてくれ！ それを言はれるたびに、又死目を見るやうに思ふ。きつと、其客人に逢ふと、おのしの今言つたことを思ひ出して、おれは氣が狂ふかも知れない。…あ、來た。

クリオミニーズ及び役人ら、王子フロリセルとパーティタ姫とを案内して又出る。王は席を離れて之を迎へて

お母さんが極めて貞實なお方であつたと見えて、お父さんの王さん宛然の面貌に貴下をばお生み附けなされたわい。わたしが、つい尙二十一であつたなら、貴下のお父さんに逢ふたびに爲たやうに、兄弟よと貴下を呼んで、子供時代の亂暴の話などをしかけるだらうと思ふほどに、面附なり、

様子なりがお父さん宛然だ。よう來て下すつた、よう來て！ それから、美しい姫さん、…お、全く女神さんだ！…あゝ！ わたしは二人なくしてしまつた！ あれらがあれば、貴下たち二人のやうに、人の目を駭かしつゝ、こんな風に天地の間に立つたでもあらうに！ それのみならず、わたしは…みんな自分の愚かさからだが…貴下の立派なお父さんとの交誼をも親睦をも失つてしまつた。それから後は、辛い思ひをして生きてゐる、どうかもう一度逢ひたいと思ひながら。

フロリ (うやくしく會釋して) わたくしは、父の命令で、お國へ参りましたのです。父は、くれぐれも莫逆の親友として、兄弟王としての御挨拶を申し上げます。命じました。老年のために衰弱いたしましたので、心に任せませぬと申すやうな情態でございませんでしたら、父自身山海萬里を越えて、親しくお目にかゝりましたでございませう。父は殿下をば、あらゆる天下の王權よ

リオン

りも、國王よりも愛しまがらせてをる、と申せ、とわたくしに命じました。

お、わしの兄弟！ 世に稀な、立派な君子！ 返すくも足下に對して

は濟まんことをしました。さういふ深切な傳言を聞くのは、取りも直さ

ず、なぜ早く詫びなかつたぞと叱られるも同然だ。……よう来て下すつた。

春が来たやうに嬉しい。で、何か、わしの兄弟は、こんな比ひのないお姫

さんに怖ろしい荒海の危険をさへも冒させたのか、わしを見舞はせるため

に？ そんな苦勞をさせたのか、命がけの船旅までさせたのか？

殿下、彼女はリビヤから参りましたのです。

リオン リビヤといへば、あの勇敢な、立派な君主、スマラスが畏れられ且つ愛せら

れてゐる國だ。

フロリ はい、あそこからです。スマラスは父たる證の涙ながら姫と手を別ちま

した。それから、幸ひに南からの順風に送られて、船を進め、父の命分通

り、殿下を御訪問いたすことを得ました。侶廻りの主な者共は、お國の海

岸に着すると同時に、暇を遣しました。彼等は、リビヤでのわたくしの好

運、並びに此地へ夫婦もろとも安全に着しましたことを知らせますために、

ボヘミヤへ歸りました。

リオン あ、願はくば神々たちが、あなたたちが此國にゐる間は、一切の病毒を攘

ひ淨めたまはるやうに！ あなたのお父さんは神聖な、立派な君子だ、そ

れだのにわたしは濟まんことをした。で、天がお怒りになつて、わたしの

子供を奪つておしまひなされた。が、お父さんは徳行の人だから、其徳相

當の貴下のやうな良い兒を天が賜はつた。あ、どんなに嬉しいことだ

らう、若しわたしが今、斯うして立派な貴下たちを見るやうに、伴や女を見

ることが出来たら！

此時貴族役の者一人出る。

三三

貴族

大王殿下、只今申し上げることは、若し目前の證據がございませんでしたら、御信用下されましますまいと存じます。憚りながら、ボヘミヤ王より、わたくしを以て、直々御挨拶遊ばされます。すなはち其王子をば……御父上の御許を、行々王とならせらるべき其お國を、御身分柄にも、御本務にも御介意なく、さる羊飼の女と共に、御出奔遊ばされました由の王子さまをばお取押へ下されますやうにとの御要求にございます。

王ははじめ一同驚き色めく。

リオン

ボヘミヤ王は何處にをられる?

貴族

當御府内にお在でございます。手前は只今、直接御許から参りましたのでございます。前後しどろの申し上げ方と相成りましたが、畢竟餘りに不思議なお使を承はつたからでございます。ボヘミヤ王には、お二人の蹤を追はせられて、當御殿へとお急ぎの途上、此偽姫君の父兄をお認め

になつたらしうございます。其者共は、王子と御一しよにお國を出奔いたしました輩にさうにございます。

フロリ

(半分獨語のやうに) カミローが裏切をしたんだ、今までは曾て不正な事や不義な事をしなかつた男だつてが。

貴族

(フロリセルに直づけにお責めなさいまし。彼仁はお父上の王のお侶をして参つてをります。

リオン

だれが? カミローが?

貴

はい、カミローが。手前は彼仁と面談いたしました。彼仁は只今彼の兩人の者を糺問中にございます。兩人の者は、切りに慄へ戦いて、跪まづいたり、地面をキッスしたりしまして、物を申すたびに誓言いたします。ボヘミヤ王は更にお聽入れの體なく、あらゆる嚴刑を以て命を取るぞと仰せられてございます。

バーデ お、お氣の毒なお父さん！…神さまが始終見張つていらしつて、式を
挙げさせないやうになさるのでせう。

リオン 足下たちはもう結婚したのか？

フロリ いゝえ。迎も夫婦にはなられさうにないのです。運の星の光は、寧ろ谷
間へ先へ射すやうです。運には高いも卑いもありやしないのですから。

リオン 王子、此婦人は王族なのかい？

フロリ はい、一たびわたくしの妻となりさへしますれば。

リオン さ、其一たびが容易に來まいて、お父さんが急いでやつて來られたとする
と。あ、お氣の毒だ、まことにお氣の毒だ、足下が子たるの道に背いて、
お父さんの憎しみを受けられ、又足下が選んだ婦人が、容姿の美しい程に
は身分がよくないので、正式の結婚が許されないといふのは！

フロリ (バーデに) これ、顔をお舉げ、たとひ運命がわたしたちの敵になつて、お



父さんと一しよにわたしたち
を追廻したからつて、二人の
愛情を如何することも出来や
しないよ。…(リオンに)
どうぞわたくしと同じ年配で
いらつしやつた頃の心持を憶
ひ出して、わたくしの身方に
なつて下さい。殿下が呉れ
ろとおつしやれば、父は、どん
な世に稀な物だつて、やくざ
な物のやうに思つて、すぐ獻
上げるんでせうから。

リオン 若し果してさうならば、わたしは足下の其世に稀な美人を貰ひかけて見よう、お父さんは、該婦人を只やくざな者とはかり思つてござるやうだから。

ホーラ (リオンチーズに) もし、御前、あなたのお目にはあんまり若々しいお氣が働きますよ。お亡くなりなすつたお妃さまは、お死去の前一月そこいらまでは、あなたが今お見詰の遊ばしていらつしやる其お方よりはすつとお美しうございましたよ。

リオン 彼女のことを思つてゐたのだ、見つめてゐたのは。……(フロリセルに) お、そこで今のお頼みの一條だが、……わたしがお父さんに面會しませう。足下が情のために名譽を忘れない以上、わたしは足下の身方だ。其爲にお父さんへの使者の役を勤める。だから、わたしに従いて來て、どういふ風にするかを御覽。……さア、こつちへ。

王先に皆々入る。

第二場 リオンチーズの宮殿の前

オートリカスと紳士甲と出る。

オート ちや、あなたは其お談話の席にいらしつたんですか？

甲 ねたんです、だからあの農老爺が包みを開けて、それを拾つた手續を話すのを聴きました。王は大分駭かれたやうでしたが、やがて一同に退席を命ぜられました。たしか親爺が、其時に棄兒を拾つたといつたやうでした。

オート その後が承はりたいものですねえ。

甲 ちぎれ／＼のお話しか出来ない。とにかく王も、カミローも、非常に駭か

れたといふことは明かに顔色に見えました。互ひに顔を見合せて、目
ば球が飛出すやうに見張られました。沈黙中に雄辯があり、身振、手眞似
が物を言つてました。世界が救はれたか、又は滅ぼされたかでもしたや
うな表情をせられました。けれども見たばかりぢや、どんな目ばしこい
者にだつて、嬉しいんだか、悲しいんだかは分りませんでした。只どちら
かの極端にや相違ないのです。

紳士乙出る。

あ、の仁に聞いたら或はくはしいことが分るでせう。……ロジロー、何か珍
聞？

乙

もう、く、火花だく！ 果して御託宣通りだつた。王のお實子のお姫
さまが見附かつたのだよ。不思議なことが澤山一度共に持上つた。小唄
作者がこれを書かうとしたら、目が廻ッちまふだらう。……

紳士丙出る。

あそこへボーライナどの、執事が来た。あの仁がもつと知つてるよ。……
(丙に) どういふことになりましたね？ 事實ださうですが、まるで昔話で、
信ぜられかねますよ。いよく王の嗣君が見つかりましたかい？

丙

全く事實です、若し委曲の事情が備はれば事實が生れるものですな。ら。
聞いた事を観たと同様に思はんければならん程に證據が統一されてゐま
す。ハーマイオネさまのお上被、お頸飾の寶石、添へてあつたアンチゴ
ナスどの、自筆の一通、それからお母様のお妃宛然のあのお方の御品格、
育よりも氏が現す高尚いお氣質、その他いろくんな證據があつて、あの方
は、たしかに王女さまに相違ないのです。……時に、王お二方の御會見を御
覽でしたか？

乙

いゝえ、

丙神

をしいことをなすつた、迎も聞いたのちや想像の附かない光景でしたよ。
 一つのお喜びが極まると、又一つのお喜びといふので、悲歎めが、これちや
 アもう迎も人間界にやゐられないと、別れを泣くのかと思ふやうに、涙河
 を做す中での喜びといふのです。天を仰ぎ、目を見張り、両手をさし舉
 げ、まるでお氣が狂つたやうなお顔附、お衣服を見なきや、どなたか分ら
 ん位ででした。就中こちらの御前さまは、あの方がお姫さまとお分り
 になると、却つて狂氣のやうにおなりになつて、「お、お前の母さん、お
 前の母さん？」とお叫び遊ばして、それからポヘミヤ王にお詫びをなさる
 やら、お婿さんの王子をお抱きになるやら、かと思ふと、又お姫さまを引抱
 へて、暗雲にぐいぐいとお締めなさる、かと思ふと、羊飼の老爺にお禮をお
 つしやる。老爺は驚げて、王さま二三代間も置据の古ぼけた噴水石像の
 やうな顔をして突立つてゐました。あんな御對面でもものは、聞いたこと

乙神

もありません。迎も筆や口の及ぶこつちやありません。
 で、アンチゴリーナスどのはどうなつたのです、そのお幼いのお伴れ申し
 て住つたアンチゴリーナスどのは？

丙神

これも昔話らしいことです、聞かうとも信じようともしない者にまで聞
 かせる方のあるお話です。熊に裂かれて、亡くなられたさうです、これは
 あの羊飼の証言です。あの者は、いかにも正直さう、無邪氣さうである上
 に、ポリーライナどの、見覚えてをられるアンチゴリーナスどの、ハンケチと
 指輪とを持つてをります。

甲神

船や従者たちは如何なつたのです？

丙神

主人の最期と同時に、あの羊飼共の目の前で難破したさうです。つまり、
 あのお子を捨てに住つた者共は、あのお子が捨はれなすつたと同時に死ん
 だのです。あゝ、しかし、ポリーライナどの、心の切なさが察せられる！

一方のお目はお所天をお亡くしなされた悲みに下ばかり御覽しながら、一方は御神託のあらたかさを嬉し喜んで、天を仰ぎ、お姫さまを抱きあげ、抱きしめ、もう二度とはお姿を見失ふまいといふやうに、其まゝ、心臓へ縫附けさうな仕草をしてをられました。

甲 該一幕は、世界の王侯ばかりを見物人にして見せべき劇でしたね。俳優が俳優ですから。

丙 とりわけ、一等お可哀さうに思つて、我知らず、魚ちやアないが、釣り寄せられて、涙を果しなく流しましたのは、前お妃さまの御臨終のお話が始まつた時でした。王がお立派な深いお懺悔と共に其悲しい事の始末をお話し遊ばすと、じつと聴いていらしたお姫さまが、次第に堪へがたないお顔附をなすつて、遂に御愁傷の餘り、嗚呼とお一聲、いは、血の涙をお流しなすつて、そのまゝ泣伏しておしまひなすつた。其時にや、わたくし

も心の臓から血の涙が出さうに思ひました。石のやうな人達でも、顔の色を變へました。氣絶した者もありました。みんな泣きました。世界中の者が見てゐたなら、世界中が泣いたでせう。

甲 もう御殿へお歸りになりましたか？

丙 いゝえ。お姫さまは、ボーライナなどの御所藏品のお母さまのお肖像のことをお聞になつて、……これは多年費つて彼の伊太利の名匠のジュリオ・ローマノーが新作いたしましたもので、若しあれで生命を附與する力があつたなら、造化を欺いたであらうといふほどに、お妃さま宛然の妙作で、物をいひかけたら、返辭をしさうだといふことをお聞きになつて、御一同が是非見たいと御懇望で、すぐお出向になりました。さうして彼方でお夕食を食しあがる筈です。

乙 豫てボーライナなどのと彼處とは、何か重大な關係がありさうだと思つてゐ

ました。といふのは、ハーマイオネさまのお死去以来、日に二三度づつ、内々で、あの遠隔れた處へ往かれることになつてゐたからです。ちや、手前らも出掛けて行つて、其お慶びの介添にならうぢやありませんか？

甲 苟も陪觀を許される望の者は、みんな出掛けるでせう。一瞬間毎に、何か慶ばしい事件が出来しさうだ。陪席してゐないぢや、けつこうな珍聞を聞落してしまふ。さ、往きませう。

三人とも入る。

オート (獨り残りて) 今までに悪いことをしてゐなかつたのなら、出世の蔓が頭の上へ落下ちて來るところだ。王子さんの船へあの老爺と息子とを伴れてつたのは乃公だ。包や何かの事を、斯うく言つてましたッて王子さんに知らせたのも乃公だ。けれども、あの時にや、王子さんは、あの羊飼の女だとはかり思ひ込んでござつたお姫さんの事で、から夢中だつた上に、海が荒れ

たんで、姫さんが怖しく船に酔ふ、御自身も殆ど同じくといふ騒ぎなので、肝腎の調査は、つい其儘になつてしまつてゐた。が、つまり、同じこつた。よし、俺は俺があゝの秘密の發見者になつたところで、俺にや種々なわるいこととがあるんだから、結果はあんまり香しかアなかつたらう。……

此うち例の牧者親子、前の場とは異つた立派な、紳士らしい服装をして、腰に劍を佩んで出る。

あ、あそこへ、俺が其氣でなくつて善根をしてやつた奴等が來た。奴等にや既う出世の花が咲きかゝつてらア。

観 倅 (倅に) さア、來いよ。おれは既う子をこしらへる齡ぢやないが、おのしがこしらへりや、息子も女も、みんな生來の紳士だぞ。

倅 (オートリカスを見附けると、居丈高になつて) あ、い、處で逢つた、あ、あなた。あ、此間ア、俺が生來の紳士でねいだから、決闘するのは否だ言はしつた

だが、此服装見てくれつさい。これ見ても、まんだ生來の紳士でねい思ふかね？ さ、言へるなら、言つて見さい、此衣服生來の紳士で無いッて。さ、虚言者だ言つて見さい。おれ生來の紳士であるか無いか、試して見せべいから。

と帯剣をひねくる。オートリカスわざと下手に出て和める。

オート どうして、只今アお立派な、お生來の紳士さんですよ。

伴 もう四時間も前からだ。

観童 おらだつてさうだ、なう。

伴 あ、さうだよ。だけんど俺の方が先へ紳士になつたよ。何故つて、王さまの憲子が俺の手を取つて、兄弟だ言はしつた餘ッ程後で、あの王さま二人が父さまのことを兄弟だ言はしつたからね、それからあの兄弟分の王子さんと俺の妹のお姫さんが父さまのことを「おらがとっさまア」言つ

ただからね。さうしてあの時に、一同泣き出しちやつたッけが、あれがその俺達の零しはじめの紳士涙てんだ。

観童 まだ、生きてるうちに、幾度も、あんな涙こぼすことがあるだんべ。

伴 さうだとも。で無きや詰んねいこんだに、こんな剛復(幸福)な身分になつたつて。

オート (ベコく辭儀をして)まことにどうも、只今まではお殿さま方に、いろんな失禮を働きました、相済みませんでございました。どうぞ御勘辨下さいまして、王子さまへよいやうにお取做をお願い申します。

伴 (伴に)取做してやんなよ。紳士になつたんだから、寛大にせんけりやならんわ。

オート (オートリカスに)ちやア改心するかね？

オート へい、貴命でござんすなら、へい。

伴

(大意で、機嫌を直して) ちや、手を。(と握手して) おれ王手さまに誓言してやるべい、お前は、ボヘミヤ中の、だれにも負けねい正直者だツて。

観

只さう言へばいッだ、誓言はしねいがい。

伴

紳士になつたから、誓言しるないふかね?

観

只言ふのア農夫か郷士だよ。

おらア誓言する。

伴

それが虚になつたら如何しるだリ。

観

虚になつても何でも、紳士ちふ者ア、友達の爲にや誓言しるものだに。だから俺王子さまに誓言すべい、お前は立派な腕利で、酒なんか飲ひ酔ふやうなことア無いツてね。

けんども、俺お前の腕ツ利でねいことも飲ひ酔ふふことも知つてるだ。けんども俺誓言しるだ、だから俺お前が立派な腕ツ利であつて貰ひていだよ。

オート へい、なるたけ然ういたします。

是非とも然う爲るだね。ふんとに俺不思議に思つてるだ、立派な腕ツ利でもねい癖に、お前は酒にア飲ひ酔ふだからね。……(向うを見て) あれ! おらが親類の王さんや王子さんがお妃の畫像だらふのを今見に行かつせるところだ。(オートリカスに) さ、従いて來さつせ。おうたちが引立て、やるべいから。

三人とも入る。

第三場 ポーライナの別邸内の拜堂

リオンチーズ王、ボリクシニーズ王、王子フロリセル、パーティタ姫、カミロ
1、ポーライナ、貴族ら、侍者ら出る。

リオン

ポーラ

お、ポーライナ、お前にはどう禮を言つてよいか分らんくらゐだ！
 御前さま、どういたしましたして、お爲をくくと存じながらも、不束な御奉公ばかりでございますのに、一々物體ないお報いをば戴いてをります。それさへあるに、お兄弟さまのボヘミヤ王さま、又、あのお繼嗣のお二方さまと御一しよに、斯うしてわたくしの賤しい住居へお成り遊ばして下さいますのは、いやが上の御高恩でございます、一生かゝりましても御恩報じが出来かねます。

リオン

お、ポーライナ、却つて有難迷惑でもあらう。が、今日来たのは、亡い妃の彫像が見たいためだ。先刻から通つて来た廊下にも、いろく珍らしい美術品があつたが、女が見たがつてゐる母の像といふのはまだ見なかつた。

ポーラ

御存生中に比ひないお方は、お記念のお肖像とても、曾て御覽じませなん

だ程の物、又曾て人の手で製られたことのない程の物と存じますので、わざと別室にお据ゑ申してございます。(と正面の帳内へ科をして)すなはち此處にございます。いかにも生々と似せてございますよ、眠の姿が死の姿に似てをりますやうに。御覽遊ばして、よう出来てゐるとおほめ下さいまし。

ポーライナ 徐かに帳を開くと、ハーマイオネ、彫像のやうに、じつとして立つてゐる。皆々只茫然と見惚れてゐる。

お言葉のないのはけつこうでございます。深くお感心遊ばしました證據ですから。ですが、何とかおつしやつて下さいまし。まづ御前。ようお似申していらつしやるぢやございませんか？

リオン

そつくりそのまゝの姿だ！…なつかしい石の像よ、おれを叱つてくれ、お前は全くのハーマイオネだと言ひたいから。…だが、叱らないところ

が、却つて其人のやうでもある、赤兒のやうに、美德其者のやうに、やさしかつたのだから。……しかし、ボーライナ、彼女は如是に皺はなかつた筈だ、こんなに船を取つちやゐなかつた。

ボリク (横合から) おゝ！ 大して老けても見えませんよ。

ボーラ さう御覽遊すやうなら、ますます彫像師の技工が偉れてゐるのでございます。十六年経つて尙生きていらしたらいふお相を現しましたのですから。

リオン 尙生きてゐてくれたならば、どんなにか嬉しからうに、今は魂魄を貫かれるやうな思ひだ。おゝ！ 斯ういふ風をして立つてゐた、生きてゐて、ちやうど此通り品位高く、今は冷たさうに立つてゐるが、生きてゐて、温かい血を流へて、予が始めて言ひ寄つた時に！ あゝ、愧しい。おれの心こそ石だと此石めが叱りはせんか？ おゝ、妃の像よ、お前の威嚴には魔力が

ある。おれには舊罪を憶ひ出させるし、又女からは魂を奪ツちまつたらしい。彼女は(とボーライナ姫をじつと見つめて) 駭いて、お前と同じに、石になツちまつたやうだ。

バーデ (やう／＼少し我に返つて) 御免遊ばせ、迷ひだとおつしやつて下さいますな、斯うして膝を突いてお恵みを乞ひますけれど。(といひつゝ、像の前に跪いて) お母さま、わたくしが生れたばかりの時に、お死遊ばしたなつかしいお妃さま、あなたのお手にキッスさせて下さいませ。

ボーデ (あわて、止めて) あゝ、もし、お待ち遊ばせ！ 其お像は、つい出来たばかりでございませから、彩色がまだ乾いてをりません。

カミロ (泣いてゐるリオンチーズに) 御前、ま、何といふ深いお切ないお悲みです！ 十六の冬の風も吹拂はず、十六の夏の日も乾かし得ない其お歎きは！ ……どんな喜びでも、どんな悲みでも、もう夙に洩え果てる時分でございますのに。

カミロー、ボーライナらと共にボリクシニズも、リオンチーズの傍らに立寄りて慰める。

ボリク もし、大兄、其お歎きは、どうかあの事件の原因であつた其當人にも分擔させて下さい。わたしとても御同様に、悔恨の情に堪へないのです。

ボーラ ほんに、御前さま、此つまらない像のために、こんなにお歎き遊ばすと存じましたら、決して御覽に入れるのちやございませんでしたのに。

と、急いで帳を引かうとする。
リオン (止めて) 帳を引くな。

ボーラ もうお見詰め遊ばすな、お氣の故で、動くやうにおぼしめすといけませんから。

と、又引かうとする。

リオン (止めて) 然うしとけ、然うしとけ。おれは寧ろ死んでしまひたい。が(と像を見

つめて) どうやら、既う、あれが……(といひかけて、急に見返つてボーライナに) だれが之を製作へたのだ? (ボリクシニズに) ねえ、あんた、息をしてるやうぢやないかねえ? それからあの脈管には、ほんとに血が通つてゐるやうぢやないかね?

ボリク (つくづく見惚れて) 全く傑作です。唇なども温みがあるやうに見えます。

リオン 作り着けの目が動く、技巧が目を昏ますのだらうが。

ボーラ 帳を引きませう。御前はあんまり御感動遊ばしていらつしやいますから、今に、生きていらつしやるのだとおつしやりかねませんから。

と、又像へ立寄りらうするのを止めて

リオン お、ボーライナ! 此上二十年も斯う思はせておいてくれ! 世界中の正氣を此心に集めてゐるよりも、かういふ狂人氣分になつてゐたい。……そのまゝにしとけ。

ポーラ 済みません、そんなにまで御感動おさせ申してまして。けれどもまだまだお苦しませ申すことが出来ますの。

リオン ポーライナ、苦しませてくれ。かういふ苦しみは興奮劑ほどに甘く感ずるから。……が、どうも像の方から微風が来るやうに思ふ。どんな名工だつて息まで作り着けることがあるだらうか！ 笑つてくれるな、キッスをするから。

と立ち寄る。

ポーラ (止めて) 御前さま、ま、お待ち遊ばせ。お口元の彩色はまだ乾いてをりません。キッス遊ばすと、剥げます、油彩具でお口が汚れます。帳を引きませう？

リオン (止めて) いや、向ふ二十年は引かせん。

バーデ (見惚れて) いつまでも、斯うして立つたまゝで、詠めてゐたい。



ホーラ いうえ、それはお止め遊ばして、すぐにお歸り遊ばしますか、で、ございませんければ、もつと驚愕遊ばすことが出来いたしますよ。それを御承知ならば、わたくしはあの像を眞實に、動かさせて、段を降りて、お手を取らせませんが、ようございしますか？ けれども、さやういたしましたら、わたくしを魔法使ひとおぼしめすでございませう、勿論そんな者ちやございませんけれど。

リオン 如何いふことをさせても介意はん。何を言はせてもかまはん。動かす位のなら、物を言はせることも出来るに相違ない。

ホーラ 先づ十分に御信仰下さいまし。ちや、どなたも肅と遊ばしていらつしやい。或は、お禁制の事でもいたすやうに思しめす方は、お退席遊ばしませ。リオン さ、やれ。……だれも動くことはならんぞ。

ホーラ (奥に向つて) 樂人たち、さ、お像をお起し申しなさい。

奏樂！……

これにて陸で音楽がはじまる。
 (像に向つて) 時刻です。降りておいでなさい。もう石ではないのです。出ておいでなさい。皆さんを駭かしておあげ。さ、お墓は妻が塞ぎます。お動きなさい。さ、出ておいでなさい、無感覺は死へ譲つて。あなたは、あのお方から、大切な命をば償つてお貰ひ遊ばしたのです。……(皆々に)そら、動きませう。

このうちにハーマイオネ徐かに段を降る
 (駭く皆々を制して) 動いちやいけません。像のすることは神聖なのですから、わたくしのこととが正法であります通りに。(王に) お避け遊ばすな、お避け遊ばすと、又お亡くなりになりますから、二重のお罪になります。(ハーマイオネすつと近寄る。王氣味わるげに退る。ホーライ更に王に) いうえ、お手をお

出し遊ばせ。お若い時分には、あなたからお言ひ寄り遊ばしたのですが、お齡をめした今はお妃さまの方から！

妃 リオンチーズを抱擁する。

リオン おゝ！ 温かい！ 若し此れが魔法なら、飲食するのも亦同様であらせ

くれ！

ボリク 像が王を抱いた！

カミロ お頸に取縫つて！ 果して生があらつしやるのなら、お言葉が聞きたうご

ざいます。

ボリク 全く。さうして今まで何處にをられたのか、どうして蘇生せられたかを、

はつきり聞きたい。

ボーラ はい、生きていらつしやいますと申したら、昔話だとお笑ひ遊ばすでせうが、全く生きておいでのやうです、物はおつしやいませんけれど。もう

暫くお待ち遊ばせ。…(パーティタに)お姫さま、お二人のお聞へいらつしやつて、お膝を突いて、お母さまにお祝福をお願ひ遊ばせ。…(ハーマイオネに)もし、こつちへお向き遊ばせ。パーティタさまのお行方が分りましたよ。

パーティタ 走り寄つてハーマイオネの足下に膝まづく。

ハーマ (式の如く祝福を興へるとして)天上の神々、神聖なるお瓶子より我兒の頭にお恵みのかすくゝを注ぎ下したまへ！…(こらへられた涙聲で)これ、むすめ、話しくれ、どこで助かつて暮してゐました？ どこで生きてゐましたの？ どうしてお父さまの此御殿へ來ることが出来ました？ わたしは、あのボライナから、お前が必定存へてゐるといふアボローさまのお託宣のことを聞いたので、其成行が知りたさに、けふまでも存へてゐたのです。

と二人抱き合つて泣く。

ボーラ ま、其お話は後に遊ばしませ。此場合、それをおはじめ遊ばすと、皆さま

がおなじことをお聞き遊ばさう
となすつて、却つてお困り遊ば
しませうから。さ、どなたもお
めでたづくしですから、御一し
よにいらしつて、其お慶びを皆
人にお分ち遊ばせ。わたくし
は、老年の土鳩らしう、どこかの
枯枝へでも飛んでいつて、歸ら
ん亡夫を、斯うして生きてる限
り、弔ひませう。

と顔を背けて泣く。

リオン

お、ポーライナ、なげくな！



おれがお前の承諾で二度目の妻を迎へた以上、お前もおれの承諾で、二度
目の夫を迎へてくれねばならんぞ。これは誓言して約束したことだ。お
前はおれを見つけてくれた、其來歴はまだ改めて聞かんければならんが
……たしかに死んだのを見たのだし、又幾たびもあれの墓で、かひない禱
をもしたのだから……お前の二度目の立派な夫は遠く求めるまでもない
大抵あてがついてゐる……おい、カミロー、彼女の手を取りなさい、彼女
の節操の立派さは、國王たる吾々二人が十分に證明する……(皆々に)さ、こ
こを出ようぞ……

ハーマイオネは此時までポリクシニスには會釋をしないで、わ
ざと避けるやうにしてゐる。リオンチーズは、それに心附いて
ハーマイオネに

え、どうしたのだ！ わたしの兄弟に挨拶をなさい……二人とも堪忍し

て下さい、あなた、ちの淨い目の間に假にも邪推を挿んだのは濟まなかつた。……(妃にフロリセルを紹介はせて)これがあなたの婿だ、王子だ、天のお指圖で、我女と許嫁になつてゐるのだ。……ポーライナは、案内をしてくれ、あちらへ往つて、ゆつくりと各自が問ねあふことにしよう、あの時別れて以來此長い間、互ひに如何して暮してゐたかを。さ、早くあちらへ。

皆々入る。

* * * * *

大正七年十一月 日印
大正七年十一月 日發 行 刷

(製複許不)

附費しなはばの多
錢拾五圓壹金價正

譯者 東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内雄藏
發行者 東京市小石川區音羽町四丁目十一番地 荒川信賢
印刷者 東京市牛込區櫻町七番地 渡邊八太郎

發行所 東京市牛込區 早稻田 早稻田大學出版部
(接警口座東京二二三番)

→[刷印社會式株刷印清日]←

所 擗 賣

名 古 屋 市	大 阪 東 區	東 京 京 橋	東 京 京 橋	東 京 日 本 橋	東 京 神 田	東 京 神 田
星 野 文 星 堂	盛 文 館	東 海 堂	北 隆 館	至 誠 堂	東 京 堂	富 山 房

(餘 書 地 各 他 其)

117
116

終

